



# つるがしま里山サポートクラブ 通信

第8号  
2022.07.01  
発行責任者  
小澤邦彦  
編集責任者  
杉山行汪

## 美竹林と竹の有効利用

理事 吉井 優

五味ヶ谷市民の森竹林整備活動は、里山クラブ設立の2003年4月から始まりました。とは言ってもタケノコ駆除活動とタケノコ汁の宴会でした。その後びっしり生えた竹林を間伐し、倒れた竹や枯れ竹の伐採を行っていきました。当時は、傘をさして歩ける竹林が理想とされていたため、それを目指していましたが、これは良質の筍を生産するための筍農家の竹林と言うことで、方針を変更しようとしています。日本3大美竹林と言われるのが、京都の「嵯峨野」岐阜の「揖斐川」山口の「岩国」です。どこも枯れた竹や倒れた竹、曲がった竹がなく、見通しは良いですが、歩道から傘をさしては一步も中に入れない様な普通の竹林です。いずれも緑の太くまっすぐな竹が、凜としてそびえています。こちらの方が筍農家の竹林より、日本人の美意識に合っていると思われます。良い竹林を持続するためには良い親竹を残すことが重要で、若い地下茎から発生したものでないと、美竹林を維持できません。若い地下茎からは、早期にタケノコが出るため、3月や4月早々に出たタケノコはできるだけ、残すようにしています。

こうして古い竹を伐採する整備作業を行って行っていますので除伐した竹の処理が大きな負担になります。いか有効利用ができるかが知恵のしぼりどころです。2007年から門松づくりを始め、今では友好団体の分まで材料を提供し、一番の有効利用となっています。2011年から東北の震災で、牡蠣殻のための竹を大量に気仙沼に送りました。この時、子ども動物自然公園のレッサーパンダの餌に孟宗竹の枝葉が必要とされていることを聞き、今でも竹の伐採作業の後で動物園に枝葉を提供しています。また2012年からウッドチップを導入し、林床に残された伐採竹を全て粉碎しています。これが、五味ヶ谷市民の森竹林の美林化に大きく貢献しています。その後竹あかり教室や、流しそうめん大会を開催し、竹を消費したこともあります。五味ヶ谷里山体験会では、竹細工教室を開催し、好評を得ています。



## 地域と繋がりを持つきっかけに

理事 柏木 美之

何年か前、「すっかり鶴ヶ島に根を下ろしたみたいね」と東京時代の友人に言われました。そういえば、生まれ育った所より、圧倒的に顔見知りが多いし、いざというとき声を掛けられるのもこの地域の人たちです。この地に引っ越してきて四半世紀近くになるのだから当然かも知れない。しかし、お隣の人とは年に1~2度程度しか会わないという状況でもありますが。

娘が大学を卒業し就職して家を出たとき、これは何か新しく始めなくてはという思いに駆られました。気を紛らわせるものが欲しかったということと、地域を知りたいということからでした。その時期に東市民センターで行われていた「ボランティア・フェスタ」で地域で活動しているいくつかの環境団体を知り、「つるがしま里山サポートクラブ」に入ったのが地域との繋がりを持つ大きなきっかけになりました。

今では、近所の方の庭に咲いたきれいなバラの花や菜園のナスや芋を貰い、収穫時期が良く知らないのに収穫した山椒の実を配り、いろいろなイベントに計画から関り、文句を言ったり軽口をたたき合ったり、毎日がとても充実しています。



## 4月～6月の主な活動

### 4月～6月の主な活動

4月から5月にかけては小彼岸桜の新芽取り・挿し木植樹の季節です。太田ヶ谷の森内や隣接する道路脇に植樹しました。今年は運動公園通りの小彼岸桜と共に越生町の虚空蔵尊に隣接する桜園から20種の桜の新芽を採取し挿し木にして育てています。2年後には太田ヶ谷の森の一角に植樹し桜園にする予定。

五味ヶ谷の森では恒例の筍掘りを今年は2回実施し合わせて70家族が里山に親しみ、大名焼きにした筍に舌鼓を打ち、森の恵みを感じ味わいました。

6月には高倉の森にて里山体験会を実施しました。コロナ禍も少し収まって来て城西大学の学生のボランティア参加も復活です。当日は天気予報では安定しない模様で参加を躊躇された方もあったようですが、水に浸かって魚を追う川遊びは日常では経験しない体験で子供と大人の声で活況でした。

鶴ヶ島を流れる大谷川、飯盛川で川遊びできる場所の清掃活動や、五味ヶ谷、高倉、太田ヶ谷、藤金の森の整備も実施しました。

会員の栽培する農園でジャガイモ掘り放題は屈んだ姿勢で辛かったですが収穫物の入った袋の重さは格別の喜びでした。



### 4月～6月 活動実施

- 4/06(水) 太田ヶ谷の森に小彼岸桜を植樹
- 4/09(土) 東市民センター祭に参加
- 4/16(土) 五味ヶ谷市民の森整備・総会
- 4/23(土)、5/5(木) 親子で筍掘り体験
- 5/11(水) 小彼岸桜の新芽採取・挿し木
- 5/15(土) 大谷川クリーン大作戦
- 5/17(火) 生越へ桜の新芽採取
- 5/28(土) 飯盛川清流復活大作戦
- 6/11(土) 高倉の市民の森にて里山体験会
- 6/15(水) 藤金市民の森整備
- 6/17(金) 新倉庫の組み立て
- 6/19(土) 大谷川の清掃活動の支援
- 6/25(土) 太田ヶ谷の市民の森整備

### 7月～9月 活動計画

- 7/09(土) 太田ヶ谷の森にて里山体験会
- 7/13(水) 会員親睦バーベキュー
- 7/16(土) 太田ヶ谷の森にて里山体験会
- 7/23(土) 五味ヶ谷の森にてボランティア体験会
- 8/06(土) 高倉の森にてボランティア体験会
- 8/20(土) 藤金の森にてボランティア体験会
- 9/03(土) 藤金の森にて里山体験会
- 9/14(水) 逆木荘倉庫の整備
- 9/24(土) 一二三富の会入西プレーパーク支援

## 里山サポートクラブもろやまの活動

小澤 弘

我がクラブは、2020年に発足しまだ3年目の新しいクラブです。2021年度は5月に「大類の森プレーパーク」開催予定でしたが、コロナの感染拡大により、10月3日に第一回プレーパークを開催しました。もちろん「つるがしま里山サポートクラブ」のメンバーにも、協力いただき綱渡り・ハンモックのロープの張り方を指導や・竹細工の備品も借用し開催しました、参加者は子ども44名、初めての体験でした。第2回は2022年3月26日に開催、コロナの蔓延防止期間が終了してからでした。

我がクラブのメンバーに4名の毛呂山町町議会議員がいます。町としてイベント中止中でありいくら森の中でもプレーパークはまずい等々の意見があり、蔓延防止措置の終了後に開催しました。もちろん消毒・マスク・体温測定等に十分配慮し、子ども29名と保護者が参加しました。

大類の森には、鎌倉街道と古墳が沢山あります。毛呂山町歴史民俗資料館の職員2名から遺跡、鎌倉街道の成り立ち等の説明を親子で聞きました。特に鎌倉街道は石敷きで側溝付き、その路面は現在の地面から1.5mから2.0m下にあり、700年の昔に敷かれたものと知り親子で驚くこと、古里を誇りに感じました。(里山サポートクラブ毛呂山代表・つるがしま里山サポートクラブ理事)

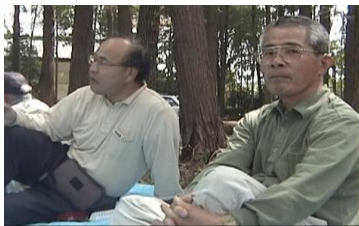


## つるがしま里山サポートクラブの設立までの思い出(3) 小澤 邦彦

前号と少し重なりますが、もう少し、思い出を書きます。

2003年(平成15年)には、「つるがしま里山サポートクラブ」という任意団体が設立されました。任意団体として発足した里山クラブは、高倉うきうきの森、五味ヶ谷市民の森を活動の場として、活動開始しました。これらの仕組の組成や仕組のあり方などに市の大きなご支援を賜り、感謝しているところです。特に、会員に地元の企業の方々の参加もあり、企業や行政の方々の御支援により、活動が開始され、地域の活動が、三位一体の体制として発足できたことは、大変素晴らしい事と思っています。

最初のイベントは、五味ヶ谷の市民の森での竹の子掘りのイベントです。参加された子供達や市民の方々は、竹藪で竹の子を掘ると言う体験は初めてという方が多く、皆さん大喜びでした。会員の中でも初めての体験で、皆さんと共に体験して、大変好評なイベントとなりました。その後、竹の子掘りのイベントは、竹林の整備を兼ねて、毎年、開催されることとなりました。



高倉うきうきの森の整備活動としては、下草刈りや倒木の処理、通路整備、飯盛川の清掃などに取り組みました。4月～11月の間に作業に取り組み、なんとか広場を整備し、森の中の通路の下草刈りが出来ました。また、森内を流れる飯盛川は、倒木、草に覆われ、その上、ヘドロに埋まり、異臭もある状態でした。ゴミのたまり場となっており、清掃に取り組みましたが、なかなか大変で、冷蔵庫、勉強机、オートバイ、自転車、扇風機、食器等々ありとあらゆる家庭器具が廃棄されており、こんなものまで、捨てられるのかと思うほどのゴミがありました。地元の造園会社の皆さんの協力もあり、トラック一杯のゴミを処理したことを思い出します。市民の森の維持活動における安全対策として、きづきの森の皆様による安全講習会を開催し、技術習得をしました。また、地域の里山の整備として、埼玉森林サポータークラブの支援による高倉の屋敷林整備に参加し、地域の方々と交流イベントを実施しました。

高倉うきうきの森を中心とした活動の中で、他の市民団体との連携活動として、環境フェアに参加、障害者の皆さんと森を楽しむ会、里山・里川シンポジウムプレイベント(荒川流域ネットワーク)などに参加しました。



## はじめに

タケノコ掘りのシーズンが来ました。皆様はもうご賞味されたでしょうか。私は4月初めに持病の腰痛が再発してずっと家に引きこもってしまい、残念ながらタケノコ掘りには参加できませんでした。しかし、ありがたいことに、会員が親切にもタケノコを家まで持ってきてくださり、教わってとおりぬかであく抜きして、フライパンで焼き醤油と味醂で味付けして食べたところ、ビールが最高においしかったですね。



ということで、本欄を使って竹について書いてみたいと思います。ただし、私は日常問題では無常識（非常識ではありません）であって、「役立たずの松下」で通っていますから、竹の種類や用途などについてはほとんど知識がありません。これらのことは皆さまのほうがよほどご存じでしょう。そこで、ここでは材料としての竹の素晴らしさについて、生半可な科学的考察なるものを、わかったような顔をして記してみたいと思います。

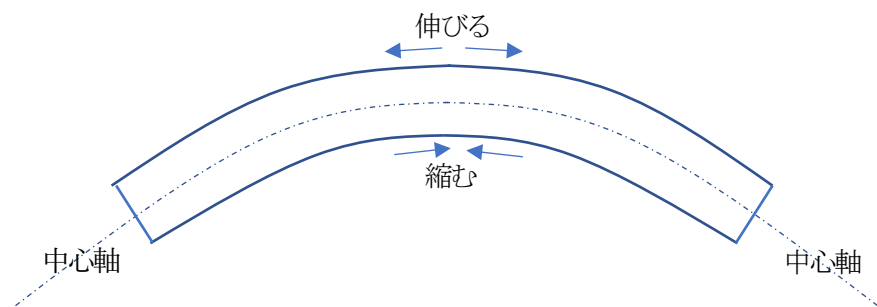
## 竹とほかの木々との構造の違い

ほかの木々と比べて、竹ですぐに気づく特徴は円筒（パイプ）状だということでしょうか。植物、特に樹木はおおむね上に向かって成長しますから、多少とも鉛直に繊維（ファイバー）状の構造を持ちます。しかし、竹はほかの木々に比べて特に繊維状が顕著です。その上に、上の写真でもわかるように、ほぼ等間隔に節があることも竹の大きな特徴です。すなわち、ほかの木々と比べて、竹の構造の特徴は円筒（パイプ）状、繊維（ファイバー）状で節があると、まとめることができるでしょう。

こんなことは誰でも知っていることと思いますが、問題は竹のこの構造上の特徴と竹の強さ、素材としての素晴らしさの関係です。これを次に見てみましょう。

## 円筒状であること

長い丸棒の両端を持って曲げると、ぼきっと折れることは誰もが経験していることですが、これをもう少し詳しく見てみましょう。下の図のように、丸棒の左右を近づけて水平に曲げると、丸棒表面の遠い部分は伸び、近い部分は縮みます。したがって、丸棒の真ん中を貫く中心軸は伸びも縮みもしません。これからすぐわかることは、丸棒の曲げに対して抵抗する強さには棒の中心部付近はあまり役立っておらず、有っても無くてもよいということになります。こうして、丸棒の中心軸の付近をくり抜いて円筒（パイプ）状にしても、それほど曲げに対する強さを減らすこともなく軽くすることができます。これが材料としての竹の第一の利点です。（次号へ続く）



## 編集後記

旧農業大学校跡地がグリーンパークとして市民に開放されて1年が過ぎました。自然を生かした森へ再生する取り組みが本格化しています。市と地元自治会、環境団体や市民が協議組織「グランドワーク」を基に夢を実現しつつあります。当クラブも四番目の拠点として活動の量が増え、内容の幅を広げています。皆さんも一緒に森で汗を流しませんか。  
ホームページ：<http://www.satoyamasupport.com/>